

1. 活動計画立案上の安全対策

- (1) 新入生は徐々に強い練習へ移行する。
- (2) 練習の組み合わせに留意し、過労防止を行う。
- (3) 季節と個々の技術に応じた練習計画を立案する。

2. 活動上・指導上の安全対策

(1) 平常時の活動

ア、練習場所の安全対策

- ・ 練習前、練習後に陸上競技場の整備を行い、安全の確保に努める。
- ・ ロードに出た練習では、交通安全に注意する。

イ、施設・設備の安全対策

- ・ 使用する設備、施設の事前事後の点検、定期的な点検を行う。

ウ、その他の安全対策

- ・ 季節に相応しい服装で実施する。
- ・ 練習中と練習後の汗の始末の徹底を図り、体調管理に努める意識を養う。
- ・ WBGT 計を活用し、熱中症予防に努め、こまめな水分補給を行う。

エ、練習上の安全対策

- ・ 準備運動や練習後の整理運動を軽視せず、怪我の防止に努める。
- ・ 練習中は各自がトラック、フィールドに常に意識を持って活動し、互いの状況を把握しながら声を掛け合い危険を回避する。

オ、練習内容の安全対策

- ・ 種目や能力に応じた練習内容を組み立てる。
- ・ 各自の体調や疲労、故障の状況を把握し、練習内容に注意する。

カ、体調の悪い者に対する安全対策

- ・ 怪我をしている者には無理をさせず、補強運動を中心に、できる練習内容を工夫する。

(2) 休業時の活動

ア、練習日の取り方

- ・ 原則として日曜日は休養日とし、祝日は大会日程等により決定する。
- ・ お盆や正月は4日～6日の連続休みとする。

イ、練習時間

- ・ 平日は18時頃を目途とし、自主練習を行っても19時の列車に間に合うようにする。
- ・ 特に夏期の休日は涼しい時間から練習を開始し、気温が高くなる前にメイン練習に入れるようにする。自主練習を行っても13時前には帰宅できるようにする。

ウ、その他

- ・ テスト期間の日・祝日の練習は原則行わない。

(3) 合同練習会・合宿等の活動

- ・ 健康管理をしっかりとさせ、睡眠時間等十分にとるよう指導する。
- ・ 感染症や伝染病等の予防や対策に注意喚起する。

3. その他の安全対策

(1) 施設

- ア、練習前と後に競技場の安全管理を行い、場合によって事務・体育科と連携を取りながら整備を行う。

(2) 用具

- ア、常に用具の点検を行い、不備なものは修理し安全確保に努める。

バスケットボール部活動上の安全管理

顧問 井上 正博
伊藤 慶

1. 活動計画立案上の安全対策

- (1) バスケットボールの技術の習得のみならず、活動を通して社会性の習得に繋がる活動を行わせる。
- (2) バスケットボールにおける傷害のリスクについて理解させ活動を行わせる。

2. 活動上・指導上の安全対策

(1) 平常時の活動

ア、練習場所の安全対策

- ・ コート内に危険なもの（ボールなど）が落ちていないか確認する。
- ・ 汗などの水分によるコートの滑りがないかを常に確認する。（モップ常備）

イ、施設・設備の安全対策

- ・ コートの破損や汚れなどがいないか確認する。
- ・ 使用する用具に破損がないかを確認する。

ウ、その他の安全対策

- ・ 特に夏場は熱中症にならないよう、こまめに休憩を取り入れる。
- ・ 生徒がけがをしたときに応急手当ができるようにテーピングやアイシングの準備をする。

エ、練習上の安全対策

- ・ 外傷や障害を防ぐため、柔軟性を高めるストレッチングを取り入れ、ウォーミングアップを十分に行う。
- ・ いきなり高度なトレーニングは行わず、徐々に強度を上げるようにする。
- ・ 平日の練習時間は2時間程度とし、週2日の休養日を設け疲労が蓄積しないよう配慮する。

オ、練習内容の安全対策

- ・ 危険なコンタクトプレイは行わないように注意喚起する。
- ・ 跳んでいるプレイヤーの足元に入らないように注意喚起する。
- ・ 無理な攻め、守りを行わない。
- ・ 部員のコンディションに応じてメニューの調整を行う。
- ・ テスト明けなどは軽いメニューから行う。

カ、体調不良者に対する安全対策

- ・ 体調不良の場合は速やかに帰宅させる。
- ・ 軽度なケガの場合はケガに支障がないようなトレーニングを行わせる。

(2) 休業時の活動

ア、練習日の取り方

- ・ 原則として火曜日と日曜日は休養日とし、祝日は大会日程等により決定する。
- ・ お盆や正月は5日前後の休みとする。

イ、練習時間（予定）

- ・ 8：30～11：30
- ・ 8：00～17：00（大会等）

ウ、その他

- ・ テスト期間の日・祝日の練習は原則行わない。（大会等が近い場合は練習する場合もある）

(3) 合同練習会・合宿等の活動

- ・ 健康管理をしっかりさせ、睡眠時間等十分に取るよう指導する。
- ・ 会場での指示にしっかりと従う。
- ・ 怪我をしない、させないよう指導すると共に、感染症や伝染病等の予防や対策に注意喚起する。

3. その他の安全対策

- ・ 試合、練習場所への移動時の交通安全の徹底。

ホッケー競技 部活動上の安全管理

顧問 中嶋 高彦
齋藤 明子
石川 剛士
安部龍之助

1. 活動計画立案上の安全対策

- (1) ホッケーの特性を十分に理解させる（特に新入部員）
- (2) 筋力・体力・精神力の向上を図る

2. 活動上・指導上の安全対策

(1) 平常時の活動

ア、練習場所の安全対策

- ・ グラウンド状態の点検・整備（危険物等の除去）

イ、施設・設備の安全対策

- ・ 周囲にネットを張る
- ・ ゴール、ゴールネットの確認

ウ、その他の安全対策

- ・ すね当てを必ず着用する（場合によってはマウスピースも）
- ・ 相手や自分自身に危害を及ぼす物は、身につけない（ピアス、指輪等）

エ、練習上の安全対策

- ・ 外傷や障害を防ぐため、柔軟性を高めるストレッチングを取り入れ、ウォーミングアップを十分に行う
- ・ 練習場所の的確な判断（周囲に危険の及ばない場所を選ぶ）
- ・ 練習時の天候不順時中止判断の徹底

オ、練習内容の安全対策

- ・ 基本に忠実にプレーする
- ・ 目的、要点、ポイントをしっかり把握させる
- ・ 部員のコンディションに応じてメニューの調整を行う
- ・ 練習にリズムを持たせ、集中力を持続させる

カ、体調不良者に対する安全対策

- ・ 体調の状態を聞き、無理をさせない（ひどい時は自宅療養させる）
- ・ 軽微な時はできる範囲で行うように指示する

(2) 休業時の活動

ア、練習日の取り方

- ・ 原則としてウィークデーは1日休業日とし、他は午前か午後の練習とし、2日以上休日が重なる時は1日休日をとる。
- ・ お盆や正月は3日～6日の連続休みとする

イ、練習時間

- ・ 2～3時間程度

ウ、その他

- ・ 大会に向けての練習において、土・日は、終日練習の場合がある（遠征練習試合等）

(3) 合宿中の活動

- ・ 健康管理をしっかりさせ、規則正しい生活を心掛ける
- ・ チームワークを良くする
- ・ 活動内容をよく理解し、充実したトレーニングに励む

(4) 対外試合時の活動

- ・ スカウティング
- ・ 軽めのトレーニング

3. 施設・用具の安全管理

(1) 施設

- ・活動前後のグラウンド整備と、ゴール、ゴールネットの点検

(2) 用具

- ・活動に適した服装と、すね当て、スパイク等の着用
- ・スティックに不良の箇所があれば補修をしてから使用する

4. その他の安全対策

- ・練習場所への移動時の交通安全（無灯火、並列、信号無視）の徹底

5. 事故例と原因分析

- ・事故例 挫傷・捻挫・肉離れ・骨折・靭帯損傷・腰痛・打撲等
- ・原因 柔軟性の欠如・筋肉疲労・ウォーミングアップ不足・筋力・体力不足・経験不足・身体バランスの欠如等

柔道部活動上の安全管理

顧問 吉田康輔
橋本陽貴

1. 活動計画立案上の安全対策

- (1) 心・技・体の向上を図り、総合力を高める活動を行わせる。
- (2) 柔道の特性を十分に理解させ、安全な活動を行わせる。

2. 活動上・指導上の安全対策

(1) 平常時の活動

ア、練習場所の安全対策

- ・ 道場内の机、イス、トレーニング機器等の整理整頓を行う。
- ・ 突起物等による負傷の要因となる所については、注意の喚起を行う。

イ、施設・設備の安全対策

- ・ 畳の破損、緩み、段差等の点検・整備を行う。

ウ、その他の安全対策

- ・ 内履きや出入りの際の礼法を遵守させる。
- ・ 相手や自分自身に危害を及ぼす物は、身につけないようにさせる。

エ、練習上の安全対策

- ・ 外傷や障害を防ぐため、柔軟性を高めるストレッチングを取り入れ、ウォーミングアップを十分にを行う。
- ・ 受け身を十分に習得させる。
- ・ 練習の目的が、勝敗のみにこだわる狭いものにならないように注意喚起する。
- ・ 平日の練習時間は2時間程度とし、疲労が蓄積しないよう配慮する。

オ、練習内容の安全対策

- ・ 正しい姿勢で技をかけ、安全に受け身が出来るよう指導する。
- ・ 危険な技、危険な姿勢等について、しっかりした知識と力の加減を教える。
- ・ 投げ込みは出来るだけマットを使用して行う。
- ・ 部員のコンディションに応じてメニューの調整を行う。

カ、体調不良者に対する安全対策

- ・ 体調の状態を聞き、無理をさせない。
- ・ 軽微な時はできる範囲で行うように指示する。

(2) 休業時の活動

ア、練習日の取り方

- ・ 原則として日曜日は休養日とし、祝日は大会日程等により決定する。
- ・ お盆や正月は5日前後の休みとする。

イ、練習時間（予定）

- ・ 8：30～11：30

ウ、その他

- ・ テスト期間の日・祝日の練習は原則行わない。

(3) 合同練習会・合宿等の活動

- ・ 健康管理をしっかりさせ、睡眠時間等十分に取るよう指導する。
- ・ 勝敗にのみこだわる試合をしないように理解させる。
- ・ 怪我をしない、させないよう指導すると共に、感染症や伝染病等の予防や対策に注意喚起する。

3. その他の安全対策

- ・ 試合、練習場所への移動時の交通安全の徹底。

弓道部安全計画

顧問 菅間 裕一・小山 泰弘

1 活動計画立案上の安全対策

- (1) 弓の特性を十分理解させて、行射中の暴発や誤射をなくす。
- (2) 自分の体型・筋力にあった弓具を使用する。

2 活動上・指導上の安全対策

(1) 平常時の活動

(A) 練習場所の安全対策

- ・練習場所は常に整理整頓、清掃を徹底する。
- ・巻藁は壁面に向け、裏面に畳を置く。
- ・行射を行っている場合、初心者のゴム弓は道場外で行う。

(B) 施設・設備の安全対策

- ・巻藁の使用度合いに注意し、矢抜けのないようにする。また、巻藁の後ろ及び左右の近い所には絶対に人がいないようにする。
- ・的に向かって射る場合、暴発することもあるため、その外れ矢を防止するために矢止めのネットを張る。
- ・夜間時(夕方)の練習では矢道の安全確保のため、射場を照らすLED照明をつける。

(C) 服装・用具使用上の安全対策

- ・練習時の服装は運動着、または弓道着とする。
- ・自分の矢尺より短い矢、他人の矢、体格・体力に似合わない弓は使用しない。

(D) 練習上の安全対策

- ・準備運動や整理運動を徹底し、怪我防止に努める。
- ・矢取りの際は、赤旗を射場から見える位置に出し、射手と声を掛け合い、必ず行射を止めてから行う。
- ・道場が狭いため弓を射るときには周囲の安全に十分留意する。
- ・弓やゴム弓は他人に向けては絶対に引かない(まねをしてもいけない)。
- ・巻藁矢で的前に立たない、また近的矢で巻藁をしない(引かないこと)。
- ・矢束の半分以上の空打ち(矢を番えないで弦を離すこと)をしない。

(E) 練習内容の安全対策

- ・初心者は弓道の特性、射法八節、弓具の取り扱いを学んでから、巻藁・的に立つようにする。
- ・初心者は顧問の許可なく的前では引かない。
- ・常に基本動作を守り、暴発・失の生じないように配慮する。

(F) 体調の悪いものに対する安全対策

- ・顧問と必ず連絡をとるようにする。
- ・練習を休ませ、休養するように指導する。
- ・状況に応じ見取り稽古、練習の補助をする。
- ・自己の体調をみて、限界を超えた練習は避ける。

(2) 休業時の活動

- ・顧問の了承のもとで活動する。

(A) 週休日の取り方

- ・平日1日以上、週休日1日以上設ける。

(B) 練習時間

- ・平日2時間、休日3時間程度とし、大会前等で延長する場合もある。

(3) 合宿中の活動

- ・無理のない計画を立て、規則正しい生活をさせる。
- ・栄養と休養を十分とり、健康管理に注意する。

(4) 対外試合時の活動

- ・大会会場はほとんどが校外であるため、弓具の運搬には十分注意する。

3 施設・用具の安全管理

(1) 施設

- ・少しでも異常に気がついたときは顧問に報告する。

(2) 用具

- ・用具は常に大切に扱い、弓、矢は完備したものを使用する。
- ・不要の部分があれば直ちに使用を止め、補修を行ってから使用する。
- ・使用不可の場合は交換する。

4 その他の安全対策

(1) 弓道の特性上、技術的上達と精神的充実が一体となっはじめて納得のいく射になることを体得し、気力の散漫、集中力の不足がないようにする。

(2) 射法八節を習熟し、行射等に誤解のないようにする。

(3) 部活動ノートを作成させ、部員の健康状態、技術習得の状況を把握する。

(4) 顧問、部長（部員）間の連絡を密にし、事故・怪我がないように活動する。

卓球部活動上の安全管理

顧問 大原 且義
紺野 兼一

1. 活動計画立案上の安全対策

- (1) 年間試合計画と照らし合わせて、計画的な練習内容にする。
- (2) 長期休業中の活動については、登校日、実習の疲れを考慮し、過重にならないようにする。

2. 活動上・指導上の安全対策

(1) 平常時の活動

(A) 練習場所の安全対策

- ①練習前、床の濡れている箇所をふき取る。
- ②練習後、床にモップをかけ、ゴミを取り除く。

(B) 施設・設備の安全対策

- ①卓球台を運搬・移動する場合に安全に注意する。
- ②故障している卓球台・防球ネットを使用しない。

(C) 練習上の安全対策

- ①卓球台を設置する際、十分な間隔をとる。
- ②十分な照明のもとで練習する。
- ③練習球が散乱したら、危険になる前に回収する。

(D) 練習内容の安全対策

- ①時間を区切って練習内容を変更し、集中力を高める。
- ②適切な休憩をとり、疲れをためない。

(E) 体調の悪い者に対する安全対策

- ①体調不良の者は練習を休ませ、休養するように指導する。
- ②ケガ等の心配がある場合は、通院するように指導する。

(F) その他の安全対策

- ①練習に適した服装で練習する。
- ②練習前の準備運動と、練習後の整理運動を行う。

(2) 休業時の活動

(A) 練習日の取り方

- ①原則的には休業日も練習を行うが、大会までの間隔が空いている時は、適宜休養日をとる。

(B) 練習時間

- ①遠征時を除けば、連続2時間の練習にとどめる。
- ②適宜に水分補給をとり、過度な練習にならないようにする。

(3) 合宿中の活動

- ①綿密な生活日程を立て、健康管理に十分注意する。

(4) 対外試合時の活動

- ①移動で体を動かさないで、十分なウォーミングアップを行うように指導する。
- ②記録をとったり、声を出して応援したりすることで、集中力を切らさないようにする。
- ③ゴミの散乱により練習環境を汚さないように指導する。

3. その他の安全対策

- ①挨拶などの礼儀の指導と、卓球台やラケットなどの用具を大切に扱うように指導する。

アグリサイエンス部畜産班 部活動上の安全管理

顧問 福室絢大
高橋美穂

1. 活動計画立案上の安全対策

- (1) 部員同士協力し、畜産の楽しさや喜びを実感できる活動を行わせる。
- (2) 畜産の特性や作業時のリスクを十分に理解させ、事故の無い安全な活動を行わせる。

2. 活動上・指導上の安全対策

(1) 平常時の活動

ア、練習場所の安全対策

- ・ 牛舎内の整理整頓を行う。
- ・ 牛との接触がある作業時は、危険が無いよう注意喚起を行う。

イ、施設・設備の安全対策

- ・ ボルト、ねじ等のゆるみ、器具の破損等が無いが適宜点検する。
- ・ バンククリーナー、搾乳機等、年1回以上業者による点検を行う。

ウ、その他の安全対策

- ・ 実習服およびそれに準じた衣服を正しく着用させる。
- ・ 防疫上、問題となるものを持ち込まない、持ち出さない。

エ、練習上の安全対策

- ・ 搾乳時、ミスや事故が無いよう複数で確認する。
- ・ 畜産業特有の事故、リスク等を十分に理解させる。
- ・ 牛の死角になる所に入らない、牛を驚かさないう指導する。
- ・ 平日の練習時間は2時間以内とし、週1日の休養日を設け疲労が蓄積しないよう配慮する。

オ、練習内容の安全対策

- ・ 牛、人ともに安全を最優先させる。
- ・ 牛に負担やストレスとなるような内容は行わない。
- ・ なるべく教員が複数になるよう体制を調整する。
- ・ 部員のレベルに合わせた内容とする。

カ、体調不良者に対する安全対策

- ・ 体調の状態を聞き、無理をさせない。
- ・ 軽微な時はできる範囲で行うように指示する。

(2) 休業時の活動

ア、練習日の取り方

- ・ 原則として水土日祝は休養日とするが、共進会等の開催日、準備がある場合は行う。
- ・ お盆や正月は5日前後の休みとする。

イ、練習時間（予定）

- ・ 16:00~17:00

ウ、その他

- ・ テスト期間の活動は原則行わない。

(3) 合同練習会・合宿等の活動

- ・ 人獣ともに感染症対策を十分に行う。

アグリサイエンス部（バイテク班）

活動の安全対策と計画

顧問 遠藤忠樹

アグリサイエンス部（バイテク班）

1. 活動計画立案にあたって

(1) 部員の技術や経験の差を把握し、無理のない計画とする。

通常の活動は、火曜日・木曜日(16:00～17:00)及び土曜日(8:00～11:30)の3回行う。

土曜日に行えない場合は日曜日とする。

(2) 施設や実験器具・器材の安全確認を常時行う。

(3) 週1回は調査と観察とし、生徒に過度な負担がかからないようにする。

2. 活動上・指導上の安全対策

(1) 平常時の活動

①活動場所の安全確保のため、顧問と部員全員で注意する。

②実験書をよく読み、手順をしっかりと頭に入れてから実験を行うようにする。

③薬品を使用するときは薬品の特性を理解し、適切に対応する。

④クリーンベンチでの無菌操作は、メス・アルコール・ガスバナーなどを使用するため、安全・確実な使用方法について事前指導をする。

⑤培地作成では、ガスバナーを使用するため安全確認を行ってから使用する。

また、熱湯を使用するため、やけどには十分注意をする。

⑥体調不良者は、見学や自宅療養などで対応する。

⑦活動場所は、常に整理整頓をし、使用後は掃除をする。

⑧実験器具や器材に異常や問題がある場合は、直ちに担当職員に連絡をし、適切な対応をする。

⑨1時間の活動に対して、10分間の休憩を適宜配置する。

⑩コンピューターを使用する場合は、顧問は情報担当の先生に連絡して使用する。

(2) 休業時の活動

- ① 実験中心とする。長時間になる場合は、適宜休憩を取りながら、集中力が持続できるよう指導する。
- ② 実験では、平常時の活動と同様に安全確保に努める。
- ③活動は必ず顧問が就いて指導する。

3. 年間計画

- (1) 通常の活動は、火曜日・木曜日(16:00~17:00)土曜日(8:00~11:30)の3回行う。
- (2) 長期休暇については、バイテク実験、ワープロ練習を数日行う。
- (3) バイテク技術の向上を目指し、実験に取り組む。
- (4) 置農祭にはバイテク実験について展示を行う。

演劇部活動上の安全管理

顧問 齋藤 慎吾
松村 麻貴
高橋 潔

1. 活動計画立案上の安全対策

- (1) 感染症対策として換気や手洗いを十分に行い、日々の活動に取り組む。
- (2) 稽古中に机や椅子、平台等を利用する際は、周囲の安全確認を十分に行わせる。
- (3) 舞台道具制作の際は各種器具、道具の操作方法をきちんと教え、慎重に作業に取り組みさせる。
また、電動器具を利用する際は、顧問の監督下で作業を行わせる。

2. 活動上・指導上の安全対策

(1) 平常時の活動

ア、練習場所の安全対策

- ・ 教室内の机、椅子、その他大道具等の整理整頓を行う。
- ・ 鋏やカッター、針等の怪我の恐れのある道具は道具箱等で管理する。

イ、施設・設備の安全対策

- ・ 教室内の物品の点検・整備を年1回以上行う。
- ・ プレハブ内の物品の点検、整備を年1回以上行い、物品の状態を確認する。

ウ、その他の安全対策

- ・ 外に出て作業をする際は、熱中症対策をきちんと行う。
- ・ 大会等で宿泊をする際は、連絡手段を確保するとともに、交通安全に気を付けさせる。

エ、練習上の安全対策

- ・ 外傷や障害を防ぐために準備運動を行い、ウォーミングアップを十分に行う。
- ・ 平日の練習時間は2時間程度とし、週1日の休養日を設け疲労が蓄積しないよう配慮する。

オ、練習内容の安全対策

- ・ 部員のコンディションに応じて活動内容の調整を行う。

カ、体調不良者に対する安全対策

- ・ 体調の状態を把握し、無理をさせない。
- ・ 本人に活動に参加する意思があり、かつ状態が軽微な時はできる範囲で行うように指示する。

(2) 休業時の活動

ア、練習日の取り方

- ・ 原則として1週間のうち日曜日または土曜日のいずれかを休養日とする。
- ・ 大会に向けた練習の場合は、大会日程に応じて調整する。
- ・ お盆や正月は5日前後の休みとする。

イ、練習時間（予定）

- ・ 8:30~12:30
- ・ 8:30~16:00（大会に向けた練習の際）

ウ、その他

- ・ テスト期間の日・祝日の練習は原則行わない。

(3) 合同練習会・合宿等の活動

- ・ 健康管理をしっかりとさせ、睡眠時間等十分にとるよう指導する。
- ・ 夜間の宿泊施設からの外出や、教員を伴わない外出を禁止する。
- ・ 怪我をしない、させないよう指導すると共に、感染症や伝染病等の予防や対策に注意喚起する。

3. その他の安全対策

- ・ 試合、練習場所への移動時の交通安全の徹底。

吹奏楽部活動上の安全管理

顧問 樽 圭子
(高橋 潔)

1. 活動計画立案上の安全対策

- (1) 部員個々の状況を把握し、各自が活動に最大限発揮できる計画とする。
- (2) 活動場所を確認し、内容も吟味する。

2. 活動上・指導上の安全対策

(1) 平常時の活動

ア 練習場所の安全対策

- ・ 活動は音楽室で行う。
- ・ 楽器の接触を避ける場所にて活動できるようにする。

イ 施設・設備の安全対策

- ・ 異常が見つかった場合は顧問に連絡する。
- ・ 楽器は大切に使用し異常があれば適宜修理を行う。また、楽器修理については、楽器店と連絡をとり修理する。

ウ 練習上の安全対策

- ・ 天候には十分に配慮し、熱中症防止のため、適宜水分補給と休息時間を活動時間に組み入れる。
- ・ 練習は2時間程度（土日も2時間程度）とする。

エ 練習内容の安全対策

- ・ 体調の悪い場合は無理をさせない。練習中に体調が悪くなった場合も我慢せず休息する。
- ・ 部員のコンディションを見ながらメニューの調整を行う。

オ 体調不良者に対する安全対策

- ・ 体調の悪い場合は帰宅を促し、状況によっては保護者へ連絡する。

(2) 休業時の活動

ア 練習日の取り方

- ・ 原則として月曜日と休日（土日祝）は休養日とする。演奏会前はそれに限らない。
- ・ お盆や正月、学校休業期間は休みとする。

イ 練習時間（予定）

- ・ 9:00～11:00

ウ その他

- ・ 原則、テスト期間は練習を行わない。

(3) 合同練習会・合宿等の活動

- ・ 合宿は行わない。
- ・ 合同練習会参加の場合は、各自会場へ向かう。
- ・ 大会参加の場合、移動は借入バス・楽器運搬は運搬業者に依頼し、部員の安全を確保する。

3. その他の安全対策

- ・ 楽器の故障が体に異常をきたすことはあまりないが、怪我等が発生する場合があるので、異常があればすぐ顧問に報告することを徹底する。

生活部活動上の安全管理

顧問 渡部弘美 小林智子

1. 活動計画立案上の安全対策

- (1) アイロンや針、はさみなどを使用する際は、自分と周りの人の安全を確かめて使用させる。
- (2) 1人1作業台での活動を原則とする。

2. 活動上・指導上の安全対策

(1) 平常時の活動

ア、活動場所の安全対策

- ・ 被服実習室において活動し、使用後の清掃を徹底する。
- ・ 被服室の机、イス、裁縫道具等の整理整頓を行う。

イ、施設・設備の安全対策

- ・ 被服室、作業台、椅子、道具の点検・整備を行う。
- ・ 活動の際は被服室、作業台、椅子、道具の状態を常に確認する。

ウ、その他の安全対策

- ・ 室内では飲食せず、衛生的な使用を遵守させる。
- ・ 活動後の作業台、椅子、道具、入口等の消毒を徹底する。
- ・ 万一アイロンでやけどした場合はすぐに冷やし、状況によっては保健室と連携し、医療機関を受診させる。

エ、活動上の安全対策

- ・ 平日の練習時間は火曜日、水曜日、木曜日各1時間程度とする。
- ・ 顧問がつけない場合は、原則として活動しない。
- ・ 近距離での作業はできるだけ避け、1人1作業台での活動とする。
- ・ アイロン、針、鋏などの道具の使用については、十分に注意させる。

オ、体調不良者に対する安全対策

- ・ 体調の状態を確認し、無理をさせない。

(2) 休業時の活動

- ・ 原則として行わない。

美術部活動上の安全管理

顧問 岩松祐子

三上 桂

1. 活動計画立案上の安全対策

- (1) 活動の際は健康観察、換気、消毒を徹底し、距離を取り密にならないよう気をつけて実施する。
- (2) キャンパスへの釘打ち、ヒートン打ちなどをする際は、怪我のないよう注意して行う。

2. 活動上・指導上の安全対策

(1) 平常時の活動

ア、活動場所の安全対策

- ・ 美術室及びベランダにおいて活動し、使用後の清掃を徹底する。
- ・ 活動場所の道具等の整理整頓を行う。

イ、施設・設備の安全対策

- ・ 美術室、ベランダ、イーゼル等の道具の点検・整備を行う。
- ・ 活動の際は美術室、ベランダ、道具の状態を常に確認する。

ウ、その他の安全対策

- ・ 室内では飲食せず、衛生的な使用を遵守させる。
- ・ 衣服等に油絵具などがついた場合の対処をしっかりとる。

エ、活動上の安全対策

- ・ 活動日は火曜日～木曜日の2時間程度とする。
- ・ 体調の悪い場合は無理をさせない。練習中に体調が悪くなった場合も我慢せず休息する。

オ、体調不良者に対する安全対策

- ・ 体調の状態を確認し、無理をさせない。

(2) 休業時の活動

- ・ 実技研修会、地区高校美術展等は活動日とする。

(3) 合同練習会・合宿等の活動

- ・ 実技研修会、その他校外活動は、基本各自会場へ向かう。
- ・ キャンパスなど大型の物は顧問が運ぶ。